

富士通株式会社

# 第121期 中間報告書

自 2020年4月1日 至 2020年9月30日

## 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第121期中間期(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。



代表取締役社長

崎田 隆仁

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申しあげるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申しあげます。また、医療関係者の方々に、人々の暮らしや社会、インフラを支えておられる方々に、心から敬意を表し、感謝申しあげます。

昨今、テクノロジーの普及により、世界はより複雑に結びつき、急速に変化する不確実な時代を迎えており、新型コロナウイルス感染症の流行や自然災害といった地球規模の持続可能性に関する様々な脅威が顕在化しています。このような状況下において、当社は、社会の変革により主体的に貢献する責任があると考え、当社が今後どのような存在になりたいのか、社会に対し何ができるのかを検討し、2020年5月に、当社が企業活動を行っていく目的を、「イノベーションによって社会に信頼をもたらす、世界をより持続可能にしていくこと」という「パーパス(存在意義)」として定義しました。当社は、パーパスに基づき、社会の課題に共感しその解決に必要な技術や能力を高め続けることでお客様や社会に価値を創造するとともに、自らのDX\*企業への変革を進めてまいります。そして本業であるテクノロジーソリューションにおいて、2022年度に売上収益3兆5千億円、営業利益率10%という経営目標の達成のみならず、富士通グループが将来にわたって繁栄していくためにパーパスの実現に向け努力してまいります。パーパス実現に向けて今期から取り組む課題につきましては、p3「TOPICS」をご参照ください。

### 富士通のパーパス

わたしたちのパーパスは、  
イノベーションによって社会に信頼をもたらす、  
世界をより持続可能にしていくことです

パーパス:富士通の社会における存在意義、企業活動を行っていく目的

当中間期の売上収益につきましては、システムプラットフォームおよびデバイスソリューションの電子部品が増収となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響や前年のパソコン買い替え需要の反動、昨年実施したデバイスソリューションの事業再編に加え、欧州の低採算国や北米のプロダクトビジネスの撤退影響を受けて、前年同期から大きく減収となりました。営業利益につきましては、システムプラットフォームおよびデバイスソリューションの電子部品の増収効果に加え、採算性の改善および営業費用の効率化によるプラス影響はあったものの、新型コロナウイルス感染症および前年のパソコン買い替え需要の反動による減収影響により、全体では減益となりました。当中間期の業績の詳細につきましては、p2「2020年度中間期の連結決算概要」をご参照ください。中間配当につきましては、計画通り前期中間配当から20円増配し、1株当たり100円といたします。今後の株主還元につきましては、本年7月に発表いたしましたキャピタルアロケーションポリシーのもと、持続的な事業の成長に基づき安定的な配当の実施を継続するとともに、自社株買いについても機動的に実施してまいります。キャピタルアロケーションポリシーの詳細につきましては、p3「TOPICS」をご参照ください。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援賜りたく、何卒お願い申し上げます。

\* DX:デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術とデータを駆使して革新的なサービスやビジネスプロセスの変革をもたらすもの

### 2020年度の業績見通し

(単位:億円)

	2019年度実績	2020年度予想
売上収益	38,577	36,100
営業利益	2,114	2,120
当期利益	1,600	1,600
フリー・キャッシュ・フロー	2,330	1,700

\* 本報告書においては、親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」として表示しております。